

国際シンポジウム「信頼できる医学情報の共有－医療専門家から消費者まで」：WHO 西太平洋地域版 Index Medicus (WPRIM) 構築の現状

北川 正路¹⁾, 津谷喜一郎²⁾

東京慈恵会医科大学学術情報センター¹⁾, 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学²⁾

I. はじめに

2007年5月19日(土)に、学術総合センター(東京都千代田区)にて、「信頼できる医学情報の共有－医療専門家から消費者まで」をテーマとする国際シンポジウムが開催された。シンポジウムでは、地域特有の保健情報を共有することを目的としてWHO 西太平洋地域事務局(The World Health Organization Regional Office for the Western Pacific: WHO/WPRO)において作成中のデータベースであるWestern Pacific Region Index Medicus(WPRIM)の概要について関係者10名からの報告があり、その後、参加者間での意見交換がなされた。

本稿では、シンポジウムの概要を、WHO/WPROおよび日本国内におけるWPRIM構築の活動経緯を交えて報告する。

II. Global Health Library (GHL) プロジェクトと WPRIM

WHO本部(ジュネーブ)の図書館部門(Library and Information Networks for Knowledge) [<http://www.who.int/library/en/>]では、信頼できる保健情報を必要とする人々に提供することを目的として、2004年にGlobal Health Library(GHL)プロジェクト [<http://www.who.int/ghl/en/>]を開始した。このプロジェクトの活動の1つとしてGlobal Index Medicus(GIM)作成 [<http://www.who.int/ghl/medicus/en/>]がある。GIMは、WHO各地域事務局の分担作業によって構築されるデータベースの総称である。米国国立医学図書館(NLM)作成の医学文献索引誌であるIndex Medicusになぞらえた名称がつけられているが、Index Medicusおよびその

オンライン版であるMEDLINEの内容がNLMの方針により選択されているのに対し、GIMは、よりグローバルヘルスへの貢献を目指し、また地域特有の保健に関する論文情報およびフルテキストを収載対象としており、MEDLINEで網羅されていない情報を補完する役割も担うことになる。

現在、WHOの6地域事務局のうち、アフリカ、アメリカ、東地中海、南東アジア、西太平洋の5事務局が地域版Index Medicusをインターネット上に公開している。後記するWPRIMJのWebサイトからリンクが張られており、一度ご覧になることをお勧めする。これらは、将来は、GIMとして各地域版Index Medicusを統合することも構想されている(図1)。

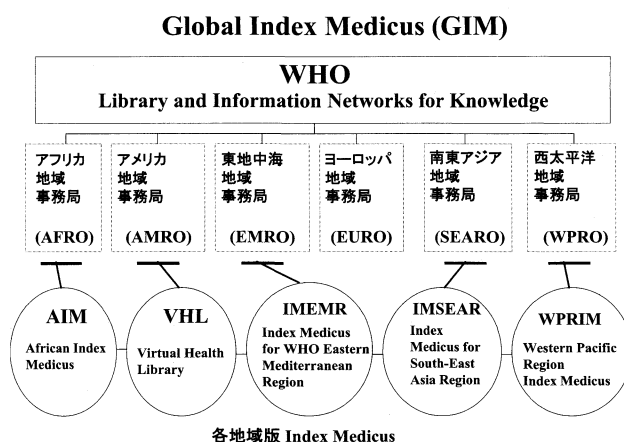


図1. Global Index Medicus の構成

日本が含まれる西太平洋地域の地域版Index MedicusであるWPRIMは、マニラに所在するWHO/WPROのコンピュータ・システムで管理されており、現在、韓国とフィリピンの収載候補(candidate)雑誌の書誌情報が掲載されている [<http://wprim.wpro.who.int/>]。一部の雑誌はフルテキストへのリンクがある。

¹⁾ Masamichi KITAGAWA : 〒105-8641 東京都港区西新橋3-25-8. Tel.03-3433-1111 (内線2121) Fax.03-3435-1922 kitagawa@jikei.ac.jp

²⁾ Kiichiro TSUTANI : 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1. (2007年10月12日 受理)

III. WPRIM の開始に向けた動きと日本国内の対応

1. WPRIM の開発経緯

WHO/WPRO が WPRIM の作成に着手することは、2005年5月にクアラルンプールで開催された会議（表1）にて明確にされた。この会議の後、WHO/WPRO と韓国担当者の協力により、WHO/WPRO 内のコンピュータに WPRIM のシステムが構築された。このシステムは、韓国の医学論文情報データベースである KoreaMed [http://www.koreamed.org/] の運用経験に基づいて設計されている。KoreaMed は、NLM 作成の MEDLINE 検索システムである PubMed で用いられている技術の提供を受けている。WPRIM と他の4つの地域版 Index Medicus の画面構成が統一されていないのは、各地域事務局のプロジェクトがある面独立して進行したためである。

その後のマニラ（2006年3月）、北京（2006年12月）、東京（2007年5月）での会議において（表1）、WPRIM に掲載する雑誌の選択基準や著作権処理方法、各国からのデータの登録手順についての議論がなされ、WPRIM の開始に向けた準備が進められた。

表1. WPRIM 開始に向けた会議（WHO/WPRO 主催）

2005年 5月23-25日	Regional Workshop of National Focal Point Librarians（クアラルンプール）（参加13カ国）
2006年 3月30-31日	Informal Consultation on the Development of the Western Pacific Region Index Medicus（マニラ）（参加6カ国）
2006年12月11-12日	Meeting on the Development of the Western Pacific Region Index Medicus and the Global Health Library with China Collaboration（北京）（参加6カ国）
2007年 5月17-18日	Second Informal Consultation on the Development of the Western Pacific Region Index Medicus（東京）（参加5カ国）

WPRIM は、西太平洋地域特有の保健情報を収集、データベース化し、それら保健情報をインターネット上で共有できる環境を提供することによって、地域の健康増進に寄与することを目的として作成されている。WPRIM で共有される保健情報を信頼あるものとするために、WPRIM では、書誌・フルテキストのデータの作成・登録に加え、WPRIM 掲載誌の質の向上も課題としている。

掲載誌の質の向上に関しては、マニラ（2006年3月）、北京（2006年12月）、東京（2007年5月）の会議において、「生物医学雑誌投稿に関する統一投稿規程（Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: URM, バンクーバ・スタイルとも

称される）[http://www.icmje.org/] や CONSORT 声明 [http://www.consort-statement.org/] ¹⁾ のような国際的なルールに準じた投稿規程を定めて、それを順守するとの方針案が挙げられている。

医学雑誌は、投稿論文について、ピアレビュー（レフェリーシステム）や編集の過程において信頼性を評価した後、雑誌での発表を通して社会へ公表するというシステムをもっている。URM には、ピアレビューや編集者に関する項目も含まれているが、WPRIM 掲載誌については、ピアレビューのシステムをもつことを必須とすることで意見が一致している。

WPRIM 掲載誌の選択基準は、現時点では、表2のように定められている。

当初は、MEDLINE 非掲載誌を対象とする予定であった。しかし、各国において地域特有の保健情報を掲載している雑誌を掲載対象とすることを目的として、必要に応じて MEDLINE 掲載誌も含むことになった。また、MEDLINE 非掲載誌という基準を設けると、WPRIM に掲載されている雑誌が MEDLINE 掲載対象誌となった場合、その雑誌を WPRIM から取り下げなくてはならなくなる。

表2. WPRIM 掲載誌の選択基準

<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアレビューのシステムをもつ雑誌 2. 定期的に発行される（年2回以上）雑誌（当初は年1回発行の雑誌を選択してよいが、翌年から発行頻度を増やすように助長すること） 3. 各国の WPRIM 掲載誌選択委員会（National Journal Selection Committee）にて認められた投稿規程をもつ雑誌 4. 保健・生物医学分野を網羅する雑誌 5. 英文抄録をもつ雑誌
<p>注：1）上記選択基準は2007年5月17-18日に東京で開催された Second Informal Consultation on the Development of the Western Pacific Region Index Medicus にて承認された必須基準である。</p> <p>2）各国の WPRIM 掲載誌選択委員会は、上記必須基準に各国独自の項目を付加することができる。 （例：臨床試験の登録公開、ランダム化比較試験における CONSORT 声明の順守を義務づけている雑誌）</p>

現在、各国において、表2の基準にしたがって掲載誌を選択し、それら掲載誌の書誌・フルテキストのデータが WPRIM のシステムに登録可能なファイル形式であるかの試験が実施されている。韓国とフィリピンのデータはすでに WPRIM に登録されているので、インターネット経由で参照することが可能である。

WPRIM の Web サイト [http://wprim.wpro.who.int/] は、ニュース誌 WPRIM Newsletter も掲載しており、WPRIM 開発の経緯と現状を把握することができる内容となっている。

2007年9月現在, WPRIM 作成のための国内委員会を設置している国は, オーストラリア, 中国, 日本, モンゴル, フィリピン, 韓国, ベトナム, の7カ国である。

2. WPRIM 国内委員会の設立

マニラでの会議(2006年3月)にて, 各国に WPRIM 収載誌選択委員会(National Journal Selection Committee)を立ち上げるようになった。これを受け, 日本の WPRIM 収載誌選択委員会として, 2006年11月に WPRIM 国内委員会(Japanese National Committee for WPRIM: WPRIMJ)が設立された(表3)。WPRIMJ の Web サイトは2007年3月31日に開設されている [http://wprimj.umin.jp]。

WPRIMJ の活動では, 収載誌選択および医学雑誌の質の向上という目的のために医学雑誌編集者との協力が必須である。また, 書誌情報のデータベース化のために国立情報学研究所 (NII), 医学中央雑誌刊行会からのサポートを受けている。

委員会構成は表3のとおりであるが, 医薬学・情報学研究者, データベース・電子ジャーナル作成者, 雑誌編集長, 図書館関係者といった各種関連分野の担当者から構成されている。

なお, WPRIM には地域特有の保健情報として伝統医学の雑誌を収載すべきであるという WHO/WPRO の意向により, 津谷と豊玉は, 東洋医学サミット会議 (JLOM) の関係者という立場からも参加している。

WPRIMJ では, WPRIM 収載誌について, まず第1段階として, 日本医学会加盟学会から発行されている雑誌のうち, NII を通して書誌およびフルテキストのデータの入手が可能な雑誌を対象とすることを考えている。順次, 各誌の編集長に WPRIM への収載の許諾を得る予定である。

表3. WPRIMJ 委員会構成 2007年5月19日現在

〈委員〉 (abc 順)	
北川 正路	東京慈恵会医科大学 学術情報センター
北村 聖	東京大学医学教育国際協力研究センター教授 「臨床病理」編集長
根岸 正光 (副委員長)	国立情報学研究所教授
豊玉 速人 (事務局)	医学中央雑誌刊行会
津谷喜一郎 (委員長)	東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学客員教授
〈顧問〉	
高久 史磨	日本医学会会長
〈オブザーバー〉	
城井 康信	メテオインターゲート
和田 光俊	科学技術振興機構
〈サポートスタッフ (国立情報学研究所 学術基盤推進部)〉	
阿藤品治夫, 尾城 孝一, 佐藤 秀, 上村 順一	
〈サポートスタッフ (医学中央雑誌刊行会)〉	
生崎 実, 高木 孝三	

また, 医学雑誌の質の向上のためには, 編集者間での意見交換の機会が必要となるため, 現在, 非公式ではあるが, いくつかの学会誌編集長と日本医学雑誌編集者会議 (Japanese Association of Medical Journal Editors: JAMJE) 準備委員会を開き, 編集者会議の設立の可能性を探っている。

IV. 国際シンポジウム「信頼できる医学情報の共有 - 医療専門家から消費者まで -」

2007年5月17日 (木), 18日 (金) に, WHO/WPRO, 中国, 韓国, フィリピン, 日本の担当者の参加により, 東京で会議が開催された (表1)。これに伴い, WPRIM 作成の経緯を日本の関係者に紹介し, 医学雑誌の質の向上について各界から意見をを得ることを目的として, 翌5月19日 (土) に, 国際シンポジウム「信頼できる医学情報の共有 - 医療専門家から消費者まで -」が, WPRIMJ と JAMJE 準備委員会の共催で開催された。

国際シンポジウムのプログラムは, 表4のとおりである。

シンポジウムは, 文部科学省高等教育局医学教育課課長・三浦公嗣による開会挨拶で開始され, 午前の部に移った。

1. 午前の部

WHO/WPRO, 中国, 韓国, フィリピンの担当者から WPRIM に対するそれぞれの取り組みについて, 英語で報告があった。

まず, WHO/WPRO の Raby から, WPRIM 開発の目的と経緯について, GHL プロジェクトとの関わりを交えた説明がなされた。

続いて, 中国医学出版協会長の Wang, 中国医学科学院図書館の Qian から, 中国の医学雑誌の種類と電子ジャーナル化の事情, および WPRIM 収載誌選択状況について紹介があった。中国では, 英文抄録をもつ300誌以上の医学分野の電子ジャーナルから収載誌を選定中とのことである。中国の伝統医学に関する論文は西太平洋地域特有の保健情報であるが, 現状では海外からは出版状況の把握が困難であるため, WPRIM でより広く公開されることが望まれる。

フィリピン大学医学部の病理学講座教授 Avila から, Acta Medica Philippina 誌の編集委員長としての経験から, 雑誌の質の向上のために, URM を取り入れる必要性が挙げられた。また, フィリピンでは, 医学論文情報のデータベース化について科学技術省 (Department of Science and Technology) の保健研究開

表4. 国際シンポジウムのプログラム

国際シンポジウム「信頼できる医学情報の共有－医療専門家から消費者まで－」	
2007年5月19日（土）9：30～17：20 学術総合センター 一橋記念講堂	
9：30	開会の辞：国立情報学研究所 教授 根岸正光
9：35	開会挨拶：文部科学省高等教育局医学教育課 課長 三浦公嗣
午前の部 座長 根岸正光（国立情報学研究所）津谷喜一郎（東京大学）	
9：40	What is Global Health Library (GHL) Project and WPRIM ? Charles P. RABY, Knowledge Management Focal Point, WHO/WPRO
10：10	Medical Journals in Paper and Online in China WANG De, President of the Chinese Association Publishing House
10：35	Status of WPRIM / GHL China Board QIAN Qing, Director, Department of Digital Resource Construction, Library/Information Institute, Chinese Academy of Medical Sciences
11：10	Medical Journals in Paper and Online in the Philippines Joselito Mario Co AVILA, Editor in Chief, Acta Medica Philippina, Department of Pathology, College of Medicine, University of the Philippines
11：40	Creation and Experiences of Korean Association of Medical Journal Editors (KAMJE) Jeong-Wook SEO, Department of Pathology; Director, Medical Library, Seoul National University College of Medicine
午後の部 座長 北村聖（東京大学）豊玉速人（NPO 法人医学中央雑誌刊行会）	
13：15	挨拶：日本医学会 会長 高久史麿
13：20	国内医学雑誌発行の現状と医学雑誌編集者会議の課題 北村聖（東京大学 医学教育国際協力センター 教授）
14：00	WPRIM（WHO 西太平洋地域版 Index Medicus）収載予定雑誌の投稿規程の分析 －生物医学雑誌投稿に関する統一規程（Uniform Requirements）との比較－ 北川正路（東京慈恵会医科大学 学術情報センター）
14：50	電子ジャーナルをめぐる動向－オープンアクセスとリンク機能を中心に－ 尾城孝一（国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課）
15：25	日本における臨床試験登録 木内貴弘（東京大学医学部附属病院 UMIN センター 教授）
16：00	WPRIMJ と CONSORT 声明 津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学 客員教授）
16：35	パネルディスカッション
17：15	閉会挨拶：厚生労働省大臣官房国際課国際保健機構 第二係長 牧野友彦
17：20	閉会

発評議会（Philippine Council for Health Research and Development）が関与することにより、適切な保健情報が公開されるような配慮がなされているとの報告もあった。

Seo は、ソウル大学医学部の病理学講座教授および医学図書館長であり、韓国医学図書館協議会の会長も務めている。WPRIM の立ち上げからシステム設計、収載誌選択基準策定に関して各国との調整に精力的に取り組んできた WPRIM 構築の立役者である。Seo からは韓国内で発行される医学雑誌の質の向上を目的として1996年に開始された韓国医学編集者会議（Korean Association of Medical Journal Editors: KAMJE）[http://www.kamje.or.kr/]の活動について報告があった。KAMJE は、WPRIM 収載誌選択や WPRIM へのデータ登録作業も担当している。

2. 午後の部

WPRIMJ の顧問である日本医学会会長・高久史麿の

挨拶の後、日本の担当者5名から日本語で報告があった。

東京大学医学教育国際協力センター教授の北村からは、医学雑誌の質の向上をはかるための方策として、編集者会議を設立するべき時期にきており、ここにおいて、意見交換の機会を設けるほか、論文執筆に関する講演会、ワークショップを開催することにより、用語の統一、論文形式の整理、ピアレビューの改善、臨床試験登録を推進することが考えられるのではないかとの提案がなされ、大方の賛同を得た。

北川からは、URM で定められている論文のスタイル、倫理的配慮の内容、ピアレビューの役割が国内医学雑誌の投稿規程にどの程度記載されているかについて報告があった。国際的に標準とされている統一規程に準じた投稿規程を策定し、それに従うことが雑誌の質の向上につながると考えられる。

国立情報学研究所の尾城からは、オープンアクセスの現状について機関リポジトリの動向を交えて報告があっ

た。WPRIM が提供する地域特有の情報が広く利用されるためにオープンアクセスの導入も考えられているので、示唆に富む内容であった。

東京大学医学部附属病院 UMIN センター教授の木内からは、UMIN 臨床試験登録システム [http://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm] のデータ登録手順や入力項目についての概要の紹介がなされた。URM においても、出版バイアスの防止や臨床試験の社会への還元的面から、臨床試験結果の論文を掲載する際はその試験が公的機関に登録されていることを条件としている。

東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学客員教授で、WPRIMJ の委員長を務めている津谷からは、WPRIMJ の活動の紹介に続き、RCT 論文の報告形式を定めた CONSORT 声明¹⁾ について説明があった。CONSORT 声明は、RCT を報告するためのチェックリストとフローチャートとから構成されるが、このような国際的な標準形式を採用することは、RCT および RCT 論文の信頼性の向上につながると考えられる。また、日本からは MEDLINE に 162 の雑誌が掲載されており、他にも掲載を希望している雑誌が多いが、この状況は、たとえばフィリピンやベトナムなどのように 1 誌も掲載されていない国や少数の雑誌のみ掲載されている国とは異なる。日本では、WPRIM が MEDLINE 非掲載である「二流の雑誌を集めた」システムとみなされてしまう恐れがある。

そこで、WPRIMJ としての特徴として、ユーザー指向に立ち、臨床試験の報告を含む雑誌においては、先に木内から述べられた臨床試験の登録制度と、CONSORT 声明の順守を投稿規程に含めていることを、掲載誌選択の基準に入れる方針であることが述べられた。

5名の報告の後、シンポジウム参加者との意見交換のために、国立情報学研究所教授の根岸の進行でパネルディスカッションがもたれた。

参加者からは、出版環境の整備について、「各国で生産された研究成果を共有するために、それぞれの国において研究成果を信頼性の高い内容で出版するための機能の強化が必要である」との意見が挙げられたほか、雑誌の投稿規程の国際的な標準への準拠に関して、「統計処理の質の向上のために、統計手法について投稿規程内に明記することが必要である」との指摘がなされた。

シンポジウムには、医薬学研究者、学会誌編集者、商業出版社、医学図書館員、データベース作成業者など各界から約 50 名の参加があったが、時間の都合で関係者すべての意見を聞くことはできなかった。

パネルディスカッションの後、厚生労働省大臣官房国

際課国際保健機構第二係長・牧野友彦から閉会挨拶があり、シンポジウムは終了した。

V. おわりに

ソウル大学の Seo は、WPRIM Newsletter の創刊号で、WPRIM の目標について、次の 3 つの面から語っている。

- 1) 地域特有の研究情報を収集する。
- 2) ピアレビューを経て出版され、また出版後に引用がなされることにより、研究情報の質を高める。
- 3) 知識リソースの存在を認識し、それらリソースを保健環境の改善のために交換・共有する。

ここに示されているように、WPRIM は、「地域特有の保健情報を収集する」、「収集された保健情報を信頼できる内容で出版し、データベースで検索可能とする」、「健康増進のために情報を交換・共有する」という機能を提供するものである。

アメリカ地域版 Index Medicus 作成者を含むグループが、途上国での情報入手に関して、「途上国の医療従事者に届く情報のほとんどは先進国からのものである。途上国で必要とされる地域特有の情報が、利用者の要求を満たすような信頼ある内容で公開されるための努力がなされていない」との問題点を挙げ、情報の信頼性向上については、「地域の情報をデータベースで検索可能とすることにより、関連知識の統合、システムティックレビューの作成、知識の一般化がなされ、その過程において信頼できる情報が生成されるのではないか」との指摘をしている²⁾。

このアメリカ地域からの指摘は、WPRIM 作成においても考慮すべき内容である。WPRIM が地域情報を広く収録して、さらに健康増進の目的ために利用されるデータベースとして発展するために改善すべき課題は多く残されている。データベース作成に関して、医学図書館は、掲載情報の選択、検索機能の改善、キーワード付与方法や書誌データ作成についての経験をもっている。これらの経験を WPRIM の充実のために活用することが望まれるであろう。

参考文献

- 1) Moher D, Jones A, Lepage L. Use of the CONSORT statement and quality of reports of randomized trials: a comparative before-and-after evaluation. JAMA 2001;285(15):1992-5. (津谷喜一郎, 小島千枝訳. 無作為比較試験の報告の質を改善する方法 CONSORT 声明. JAMA 日本語版 2002;23(6):118-24. Available from: URL http://www.consort-statement.org/mod_product/

uploads/CONSORT%20Statement%202001_Japanese.pdf
[accessed 2007-09-27]

2) Godlee F, Pakenham-Walsh N, Ncayiyana D, Cohen B,

Packer A. Can we achieve health information for all by
2015? *Lancet* 2004;364(9430):295-300.

International Symposium: “Sharing Reliable Health Information: From Health Professional to Consumer.” Overview of the Western Pacific Region Index Medicus (WPRIM)

Masamichi KITAGAWA¹⁾, Kiichiro TSUTANI²⁾

¹⁾ Academic Information Center, The Jikei University School of Medicine. 3-25-8, Nishi-Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-8461, Japan

²⁾ Department of Drug Policy and Management, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo. 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

Abstract: The World Health Organization (WHO) Regional Office for the Western Pacific is now creating a bibliographic database of locally published biomedical journals in collaboration with experts from its member states. The database, called the Western Pacific Region Index Medicus (WPRIM), is a component of the WHO's Global Index Medicus platform. The Global Index Medicus, which will integrate databases developed by WHO's Regional Offices, is expected to complement internationally known tools, such as MEDLINE, by providing regional and indigenous health information. Raising the level of quality of journal publishing is also an important issue for the WPRIM project, because health experiences and practices of countries in the Western Pacific Region, which are relevant and useful for other countries, must be reported in reliable forms. To publicize the activities concerning WPRIM, the Japanese National Committee for WPRIM (WPRIMJ, <http://wprimj.umin.jp>) held

a seminar entitled “Sharing Reliable Health Information: From Health Professional to Consumer” on 19 May 2007 in Tokyo. After an overview of the WPRIM project was presented, measures to enhance the quality of journals were discussed from the following points: 1) revising each journal's instructions for authors in accordance with the “Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals” and in journals containing articles on clinical trials 2) requiring official registration of clinical trials and 3) improving report forms for randomized controlled trials by using the CONSORT statement.

Key words: Information Systems; Databases, Bibliographic; Periodicals; Regional Health Information; World Health Organization; Western Pacific Region Index Medicus (WPRIM) (*Igaku Toshokan* 2007;54(4):380-385)